

御香宮神社

渡辺 加奈

(2019 年度入学 鈴木ゼミ 3 期生)

御香宮神社は、京都市伏見区にある神社だ。読み方は「ごこうのみやじんじゃ」または「ごこうぐうじんじゃ」。「こう」の字が「御香宮」や「御幸宮」と表記され、地域の人々に親しまれている。私の好きな京都で御香宮を調べるまで、正式名称を知らなかったのが驚いた。私が御香宮を好きな理由は、生まれたときから現在に至るまで節目ごとに関わってきたからだ。御香宮は母方の祖父母の家の近くにある。そのため、お宮参りや七五三や初詣、帰省時のお参りとして利用しており、縁が深い神社だ。

<略歴>

御香宮神社の創建年は不詳だが、日本第一安産守護之大神として広く崇められている神功皇后を主祭神として夫の仲哀天皇や息子の応神天皇のほか六柱の神を祭る。もともとは、「御諸神社」という名前だった。今から約 1150 年前の平安期の貞観 4 (862) 年 9 月 9 日に境内から香りの良い水が湧き出し、その水を飲むと病が治った。その奇瑞から、清和天皇により『御香宮』という名を賜ったと伝わる。



<安産祈願>

神功皇后は、妊娠中にも関わらず夫の仲哀天皇に代わって国を守り、無事出産したことから、安産の神様と慕われている。その神功皇后を主祭神としているため、御香宮は安産祈願で有名な神社として信仰されている。

御香宮神社のホームページによると、「腹帯を着ける習慣は、神功皇后の頃からといわれ、おめでたがはつきりした妊娠 5 ヶ月目（第 16～19 週）戌の日に腹帯を巻いて、祝膳を囲んでお祝いをするという習慣が盛



んでした」の記載がある。この帯祝いを「着帯の祝」ともいう。室町時代の武家由来で、その当時は子孫誕生を祝い、家の繁栄を願うためにも帯祝いは大切な行事だった。戌の

日に行うのは、戌（戌）が多産なうえに分娩が軽いためにあやかりたいという願いが込められている。現代でも帯祝いも行われ、妊娠5ヶ月目の戌の日に祈禱を受けて腹帯を授かる習慣がある。現在の着帯の目的としては

- ① お腹が冷えないようにする
- ② 胎児を一定の位置に保つ
- ③ 身体の安定を保ち、動作を軽快にする
- ④ お腹の筋肉が伸びきらないようにする、などがあるそうだ。

御香宮では、戌の日以外でも安産御祈禱を行っている。大安や土日祝日、これらが重なる日には大変混雑するという。

神様にお祈りしたのならば、お礼参りも欠かせない。お宮参りは生後1ヶ月頃に行う。私は3歳下の妹がいる。母が安産祈禱に行ったことは覚えていないが、妹のお宮参りに一緒に行った記憶があり、私と妹のお宮参りの写真も見たこともある。生まれた時から、いや、生まれる前から御香宮神社とは縁が深いのだと思う。

<御香水>

御香宮神社は安産祈願だけでなく、名水が湧く神社としても有名だ。湧き水は境内にあり、略歴でも叙述したように御香宮の名の由来となった。この湧き水は「石井（いわい）の御香水」と呼ばれている。御香宮神社のホームページによると、「徳川頼宣、頼房、義直の各公は、この水を産湯として使われた。明治以降、涸れていたのを昭和五十七年復元、昭和六十年一月、環境庁（現、環境省）より京の名水の代表として『名水百選』に認定された」とある。

また、「御香水（石井）」は、「白菊井」、「春日井」、「常磐井」、「苔清水」、「竹中清水」、「田中清水」と共に、伏見の七名水に選ばれている。「伏見」は、かつて「伏水（ふしみず）」と書かれたほど、昔から良質で豊富な地下水に恵まれてきた。伏見の地下水は酒造りに適しており、日本酒メーカーの「月桂冠」なども伏見で創業された。



幼少期は、湧き水を地元の方が持ち帰るのを見たり、祖母も汲んでいたため神社の水は持ち帰るものだと思っていた。成長するにつれて、伏見が水で有名で、さらに御香宮の水に価値があると知り、地元ではないが誇らしい気持ちになった。今回、名水を調べるなかで、伏見でよく食事に行く「鳥せい」も水を汲んで帰る人がいることは知っていたが、そこが七名水の「白菊井」として呼ばれていることを初めて知った。次回、行った時に持ち帰ってみようと思う。

<境内の植物>

御香宮神社は、植物も多く四季折々で違う姿を見ることができる。本殿の前にはソテツがあり、開花時期は7月上旬。ソテツは南方系の裸子植物のため、京都付近では冬に覆いを施す必要があるが、御香宮神社のソテツは覆いなしで越冬、開花結実しており、ソテツの生育域を考えるうえで重要な資料となっている。昭和61(1986)年6月2日には、京都市登録天然記念物として登録された。

豊臣秀吉が伏見城築城の際、各地から集めた茶花の一つと伝えられる、五色の花が咲く「おそらく椿」を参道から塀越しで見ることができる。開花時期は3月末から4月上旬。そのほかにも、春は多くの品種の桜を見られる。本殿の東側にある紅枝垂桜は華やかに咲き誇り、山桜やソメイヨシノ、鮮やかな緋色が特徴の陽光などを鑑賞できる。秋になると、境内では、紅葉やイチョウを鑑賞できる。石庭では、真っ赤に色づく紅葉と枯山水庭園の見事なコントラストが楽しめるそうだ。



境内では、春になると桜が多く咲き、秋には綺麗な紅葉が咲くことは知っていたが、貴重な植物があるとは知らなかった。次に訪れるときは注意深く観察したい。また、素晴らしい石庭があると知り、行きたいと思った。

<御香宮神幸祭>

現在は、新型コロナウイルス流行により中止されているが、毎年 10 月上旬に約 1 週間「神幸祭」が行われる。境内や御香宮の周りには屋台が立ち並び、各町内から花笠を持った人々が大手筋を上がりながら御香宮に向かって進んでいく。それらの様子は迫力があり、この期間が 1 年で一番盛り上がっているのではないかと考える。私も何度か行ったが、狭いエリアで本当に人が多く密集していた記憶がある。コロナ禍が収まれば、また行きたい祭りの一つだ。

アクセスとしては京阪電車の伏見桃山駅や近鉄京都線の桃山御陵前駅から徒歩 5 分ほどで、四条河原町や京都駅からも行きやすい。最寄り駅から進むとすぐに大きな赤い鳥居があるため、迷わずに行くことができるだろう。

また、駅の近くには伏見大手筋商店街がある。カフェやスーパーなど多くのお店があるので地元の方々ととても賑わっており、休憩や買い物もお薦めだ。そのほか、周辺にも良いお店がたくさんあるので、是非、御香宮を訪れてほしい。

【参考文献】

[御香宮神社 \(gokounomiya.kyoto.jp\)](http://gokounomiya.kyoto.jp)

[御香宮神社は安産祈願の神様 | 子授けにもご利益！ 戌の日に御祈禱を！ | 能・狂言を観に行こう！ \(noh-kyogen.jp\)](#)

[写真\(192 枚\)：御香宮神社 - 京都府桃山御陵前駅の写真 \[神社お寺の投稿サイト - ホトカミ\] \(hotokami.jp\)](#)

[御香水 | 観光情報検索 | 京都“府”観光ガイド ~京都府観光連盟公式サイト~ \(kyoto-kankou.or.jp\)](#)

[伏見醸友会 100 年の歩み | 伏見醸友会 創立 100 周年 since1913 \(fushimi.or.jp\)](#)

[御香宮神社\(ごこうのみやじんじゃ\) | 伏見区 | 京都桜特集 | ほっこり京都生活 | わかさ生活 \(wakasa.jp\)](#)

[御香宮神社 紅葉 秋の枯山水を彩る伏見のもみじ | 京都もよう KYOTO MOYOU](#)

[京都伏見の”秋の風物詩”「御香宮神幸祭」で熱い一週間！楽しい屋台や迫力の花傘巡行！ - Kyotopi \[キョウトピ\] 京都観光情報・旅行・グルメ](#)